

白水ダム

白水ダムは 1938 年、竹田の農家を長年悩まされてきた水供給の問題を解決するために、大野川沿いに建設された。浸食により川底が深く、近くの川から田畑に水を引くのは困難であったため、遠くの上流部から水路により水を引いてくる必要があった。ダムはこれらの問題を解決し、現在でも農場に安定した水を供給するのに役立っている。灌漑のみを目的としているダムは高さ 14 メートル、幅 90 メートル弱で、発電に使われるダムよりもはるかに小さく、巧妙に作られている。

ダムの縁にはカーブや段差があり、水の流速をコントロールして川下への浸食を防いでいる。水が構造物の中央を流れるとき、白く見えることから「白水」と呼ばれるようになった。その独創的な技術と景観美から、ダムは重要文化財に指定されている。

ダムを訪れるのは、周囲の山肌を赤や黄色に染める紅葉の季節に合わせた秋が多い。駐車場近くの広場からは、穏やかな水の流れと音を楽しむことができる。白水ダムは竹田市中心部から車で約 30 分かかり、公共交通機関では行けないので注意が必要だ。